

第516回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和3年2月3日(水)
2. 開催場所 リポートによる書面開催
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名全員リポート提出
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
 - 委員長 林 新一郎
 - 副委員長 井口 弥寿彦
 - 委員 加藤 恵美子
 - 委員 笹本 正治
 - 委員 佐藤 裕一
 - 委員 瀧川 浩
 - 委員 武重 正史
 - 委員 南澤 光弥○放送事業者側出席者
 - 外山 衆司 (代表取締役社長)
 - 太田 耕司 (取締役 報道制作担当)
 - 飯嶋 憲彦 (取締役 編成・業務推進・放送番組審議会担当)
 - 春原 晴久 (報道制作局長)
 - 早川 英治 (編成局長)
 - 浅輪 清 (編成局次長 兼 番組考査部長
兼 放送番組審議会事務局長)
 - 北澤 輝久 (編成部長 兼 視聴者室長)
 - 伊藤 晴彦 (制作局次長)
 - 宮本 利之 (制作部長)
 - 宮澤 弘樹 (制作部)
 - 松山 航大 (制作部)

4. 議題

(1) 番組審議

『 週刊ながのスポーツ！ 』

(令和2年12月26日 土曜日 午前10:55～11:15)

『 山雅劇場 激動の2020シーズン 』

(令和2年12月31日 木曜日 午前10:50～11:20)

(2) 視聴者対応報告 (令和3年1月分)

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

『週刊長野スポーツ！』

- ・ 県内のスポーツを幅広く年間を通じて特集しており、長野愛溢れるスポーツ好きの長野県人にとっては貴重な番組になっている。
- ・ 独自取材により長野から世界で活躍するような選手を発掘して小中学生の頃から追いつけることができれば番組の価値が上がる。
- ・ 長野東高校の横打監督のコメント「私自身もう一度指導者としての資質の向上を図っていかなければならない」が良かった。スポーツマンシップに溢れている。
- ・ 試合中の躍動する選手の動きと、試合後の落胆した選手や監督の表情、その対照がよく映像や音声としてよく撮られていた。
- ・ 全体としてメリハリがきき、映像も変化に富み、選手などの取り上げ方も良く、地域のスポーツニュースとして良くできている。
- ・ こうした番組で県民と代表校をつなぐことは、地域放送局として大事な役割だ。
- ・ 裾野が広がってきた県内地域スポーツをレギュラー番組化したチャレンジ精神を大事に、息長く取り組んでもらえればと願う。
- ・ 試合の勝敗や選手のプロフィールだけでなく、もう少し「チームらしさ」に明か

りを当てた、地元愛溢れる息の長いファン、サポーターを醸成するようなスポーツ番組造りをして欲しい。

『山雅劇場』

- ・苦しさを乗り越えたからこそ、実りあるシーズンだったのではないかと感じるこ
とができる番組に仕上がった。
- ・今シーズンの大きな流れを中刷り広告風のボードに沿って紹介する手法は良かっ
た。
- ・弾丸トーク、高いテンション、明るく楽しい番組。スタジオでの収録で現場感も
あった。
- ・改めてコロナ禍でも応援するサポーターの姿やルールを守っての応援など日本人
の素晴らしさやサポートがあってこそ成り立つ地域スポーツを感じた。
- ・コロナ禍、試合中断、監督交代他、目まぐるしく変化した一年の総括として、「劇
場」との番組のタイトルは、センスが良いと感じた。
- ・全体として、仲間内の番組ではなく、何も知らない者も見たいと思うような構成
にして欲しい。
- ・J1昇格するには何が必要なのか！と言うようなコーナーがあれば良かった。
- ・苦境の時の選手の焦りや怒り、葛藤をもう少し細かく取材してほしかった。
- ・コロナ禍でのチーム運営の裏舞台（遠征の困難さ、無観客試合での収入減などの
苦労）を盛り込めば、より普遍化できたと思う。
- ・出演者は男性だけなので、少なくとも女性をひとり入れるくらいの気配りはすべ
き。
- ・低迷の原因をしっかりと分析して、次につなげることができるようにするなど、もう
少し深みを持った内容にして欲しい。
- ・浮き沈みの激しい激動のシーズンだっただけに、その折々に選手たちは何を思い、

どう改善しようとしていたのか、何がうまく回り出したのか、もっと選手たちのコメントを積み重ねていっても良かった。

- ・単に「山雅らしさ」の回復を喜ぶだけでなく、山雅に育ち始めた新たな芽、方向性にも触れることができれば、J 1 昇格に向け再起を期す新シーズンへの応援歌的な番組に上手に昇華できたのでは、と感じた。
- ・県内には多様なプロスポーツがあり、それらの裾野を広げるためには、こうした番組が大事。
- ・コロナ禍中断を選手はどう乗り切ったのか、どうしてコロナ中断再開後に成績不振に陥ったのか、監督の交代によって具体的に何が変わったのか、そもそも「山雅らしさ」とは何なのかなど、特番でしか得られない“通”をうならせるディープな情報が欲しかった。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和3年1月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・視聴者対応報告資料（令和3年1月分）
- ・民間放送（第2172、2173号）
- ・BPO報告（No. 221）
- ・モニターレポート（「週刊ながのスポーツ！」令和2年8月29日放送分）

以上